

日本環境ジャーナリストの会（JFEJ）が、はじめてMeREM（メコン川生態系長期モニタリング）国際委員会と共同でシンポジウムを開催したのは、2005年6月上旬に東京で開いた『アジア・日本環境ジャーナリスト／科学者交流セミナー』だった。

筑波大学大学院生命環境科学研究科の渡邊信教授が率いるMeREM国際委員会がアジアの科学者を招聘し、JEEJがアジアの環境ジャーナリストを招聘した。アジアの科学者とアジアの環境ジャーナリストが、アジアの環境問題とメコン川の開発を軸に、初めて顔を合わせ議論した。その年のシンポジウムが、アジアの科学者とアジアの環境ジャーナリストが交流する礎になる。

そして2006年12月上旬にラオス国立大学で開かれた第4回MeREM国際シンポジウムに、JFEJがアジアの環境ジャーナリストを招聘し、そして環境NPOとしてメコン・ウォッチが参加した。

科学者と環境ジャーナリストが机上で議論するのではなく、実際にメコン川の開発現場やラオス政府側の電力開発公社、移転を余儀なくされている少数民族の村を視察しながら、将来的なメコン川流域諸国への社会影響、環境影響を論じ合った。メコン・ウォッチのフィールド・ガイドがなければ、画期的なシンポジウムは成功しなかった。

このときMeREM国際委員会とJFEJは、優れた環境NPOと連携することで、アジアの科学者グループ、アジアの環境ジャーナリストグループ、アジアの環境NPOグループという、三者のグループのさらなる交流と情報交換が、メコン川開発の監視体制の基礎作りになると考えた。

メコン・ウォッチのプラットフォームは、アジアの三つのグループの国際連携とメコン川開発への監視体制作りの第一歩だ。